

時間割コード	G2B60122	開講年度	2026				
授業題目	環境マインド実践基礎論				担当教員	浅野 郁	
英文授業名	Introduction to Eco-Mind Program: Experience-Based Training for Environmental Competence					高木 丈子・矢原 ひかり	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・5時限	対象学生	全
講義室	共通教育 4 3 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	環境マインド実践人材養成コース受講希望者は必修（同コース専用科目）。それ以外の学生も受講可。
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				環境問題に取り組む様々な人たちの活動や考えにふれて、自分で環境問題に取り組む際に必要なことについて考えをもち、環境マインドを養うことができる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース、グローバルコア人材養成コース・BASIC(日本理解)						
(4)授業の概要	本授業は全学横断特別教育プログラム「環境マインド実践人材養成コース」の専用科目ですが、コース希望者以外も受講可能です。環境コース履修を考えている人は必ず受講してください。 本授業では、長野県内で環境関係の実務の第一線で活躍されている行政、企業、研究者等をゲスト講師としてお招きし、実際に行われている取り組みや、それにどんな思いで取り組んでいるかなどについてお話しいただきます。講師の方から伺う「様々な立場での環境の課題への関わり方」、「環境問題にかかわる際の思い」、「実践にあたっての様々な課題」等を通じて、環境分野に関する視野を広げ、自発的に考え行動する環境マインド実践力を養います。 講義形式の授業ですが、後半3回はグループワークを実施します。ゲスト講義で学んだことをアウトプットすることで、知識の定着と思考力を養います。						
(5)授業のキーワード	SDGs、持続可能な発展、地球温暖化、ゼロカーボン、地域循環共生圏、国際協力、生物多様性、生態系サービス、エコツーリズム、環境教育、合意形成、信州、自然環境、環境マインド、グループワーク、実務経験						
(6)授業計画	----- 0．ガイダンス オンデマンド形式で実施します。履修登録期間中にeALPSに掲載する動画を視聴してください。 ----- 1～12．ゲスト講義 環境課題に関わるお仕事や研究に携わられている方を毎回お招きし、ご講義いただきます。ゲスト講師の例を以下に示します。今年度の講師陣は、ガイダンス動画と資料で確認してください。 行政機関：「環境省（国立公園レンジャー）」「長野県（県の環境行政）」「松本市（市の環境政策）」 民間企業等：「八十二長野銀行（ESG金融）」「直富商事（資源リサイクル）」「柳沢林業（持続可能な林業）」「ちとせ研究所（バイオベンチャー）」「ピッキオ（エコツーリズム）」 研究機関：「信州大工学部（建物の省エネ）」「信州大アクアリジェネレーション機構（水問題へのアクション）」「東京都立大（生物多様性と国際）」 ----- 13～15．グループワークと発表 ゲスト講義で興味を持ったテーマについて各自調査を行い、グループ内で発表してもらいます。また、12回のゲスト講義で学んだことをグループワークを通して振り返ります。第15回では、授業全体の総括と授業アンケートを実施します。 ----- ゲスト講師のスケジュール調整などの関係で、予定が前後する場合があります。						
(7)成績評価の方法	成績は、授業ごとの評価要素を積算し、評価します。 （1）ゲスト講義の感想文（60点） 毎回、感想文を課し採点します。12回の合計を60点満点に換算します。 （2）発表演習の内容（20点） ゲスト講義を踏まえて自らの関心に基づき、テーマを設定し調査・発表します。また、グループでゲスト講義の振り返りワークを行います。 （3）最終レポート（20点） 設定された課題に対し、1000字以上のレポートを作成します。 （4）授業における積極的な発言等は加点します（0～ 最大10点）。 いずれも、環境問題に取り組む様々な人たちの活動や考えにふれて、自分で環境問題に取り組む際に必要なことについて考えをもち、環境マインドを養うことができているかという観点から評価します。具体的には、課題を正確に理解しているか、論理的な文章構成・展開ができているか、参照事例やデータ等の事実関係を適切に使うことができているか、自身のオリジナルな見解や意見を的確に表現しているか、といった視点から評価します。						

(8)成績評価の基準	期末時にすべての合計点をもとに、授業の達成目標に対して5段階で判断を行います。 90点以上:秀(基準から卓越している) 80点以上:優(基準よりも、かなり上にある) 70点以上:良(基準よりも、やや上にある) 60点以上:可(基準を満たしている) 59点以下:不可(基準を満たさない) なお、ここでいう基準とは、大学生として環境問題に対する正しい認識、それを踏まえて検討・判断する力、それを対外的に発信していく力を有しているものとする。
(9)事前事後学習の内容	(1)ゲスト講義 みなさんが初めて接するような内容が多く含まれています。講師の方々は初めての人でもできるだけわかりやすく話をしてくださいますが、その内容をしっかりと理解するためには、あらかじめ講師の方々の話題に関連することに対して、テレビ等のメディア、新聞等の報道、書籍等を通じて関心を持つようにしてください。 ゲスト講義は、皆さんの関心を喚起することが目的です。聞いた内容をきっかけに、関心を持ったことやわからなかったことを自分で調べる習慣をもちましょう。感想文は、ゲストの話をもとにまとめたり、賛否を問うたりするだけのものではありません。具体的に考えをまとめることが不可欠です。 (2)グループワーク インターネットのみならず、文献、行政資料、新聞、学術誌など様々な媒体を使った調査から、正確な引用や出典明記等による情報の正確性を意識した調査学習を身につけます。また、ゲスト講師の方にインタビューしてみても良いでしょう。 グループ討論においては、自らの考え方やその理由などをまとめて臨むようにしてください。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(10)履修上の注意	・第一線で忙しくご活躍されている方々に、無理をお願いして来校していただいています。なかなか得られない貴重な機会なので、全力で話を聞くことに注力してください。そのために、遅刻、私語、内職等は厳禁です。 ・講師の方々とつながりを作るよい機会です。知りたいこと、わからないことなど積極的に質問をするようにしましょう。 ・グループワークは、一人ひとりが能動的に参加することが欠かせません。やむを得ず欠席する場合にはグループに対して自分の責任を果たす必要があります。 ・全学横断特別教育プログラム「環境マインド実践人材養成コース」の専用科目であるため、同コース履修希望者は必ず受講をするようにしてください。コース履修をまだ決断していない人も、まずは受講をしてください。
(11)質問、相談への対応	授業中や授業時間後、もしくはメールにて質問や相談に応じます。メールアドレスは、asanoiku@ (アットマーク以下は大学で付与されるメールアドレスと同じです)。
(12)授業への出席	ゲスト講義やグループワークはとても貴重な機会となります。原則、全ての回に出席するようにしてください。 授業の出欠は、出席確認システムかつ毎回の課題提出で確認します。 欠席回数が6回以上になると、授業の達成目標に到達することができないため単位を認めることができません。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	本授業は、「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」で欠席し「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合については、学修の補充を行います。必ず、共通教育履修案内に掲載されている方法により補充を受けるための申請をおこなってください。 所定の手続き後、担当教員に補填依頼をメールで連絡して下さい。
【教科書】	なし
【参考書】	・最新年度の「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」(環境省編集・発行) ・長野県環境白書(長野県環境部環境政策課 編集・発行) ・環境マインド推進センター教育部門編、「信州大学 環境マネジメント入門」,ISBN:9784939043666,ブラルト,2021年,1,800円(税別) このほか、必要に応じて授業の中で紹介します。